

速報

第7回ふるさとウェディングコンクール結果発表

全日本ブライダル協会×ブライダル産業新聞社主催

一般社団法人全日本ブライダル協会とブライダル産業新聞社主催による、第7回ふるさとウェディングコンクールの受賞作が決定、6月19日ブライダル産業フェア内にて表彰式が開催された。地域の魅力を活かし、多くの市民に祝福してもらうことで結婚式の素晴らしさを訴求しているかという観点から4つの賞が決定。受賞者の結婚式を紹介する。



▲東京下町の通りにバージンロードが敷かれた

まつりの当日に開催 披露宴会場は大通り

第7回ふるさとウェディングコンクールの総務大臣賞に輝いたのは、東京下町の根津で開催した結婚式。新郎でもある上田一樹さんが所属する、根津・藍染町会の青年部が主催となり、その中の有志で「藍染大通りストリートウェディング実行委員会」を発足し企画を進めた。

「誰でも参加できる」というコンセプトを実現するために、結婚式が開催されたのは根津・千駄木下町まつりの当日であった。まつりのイベントの一環として実施された。

挙式は根津神社にて、新郎新婦・親族参加で執り行われた。挙式後、まつりで賑わう境内を提灯を先導に練り歩き、人力車に乗って神社の参道から「藍染大通り」まで向かった。

披露宴会場は、大通り。鳶衆の木遣りに率いられて新郎新婦が入場。町会長の挨拶や乾杯、ケーキカットなどが実施された。

通りすがりの人も参加しやすいように、1000円の会費で飲食や人力車体験、演奏、子供向けワークショップなどのコーナーも設け

た。会費を支払った参加者は120名、全体の来場者は300名程度となった。芳名帳には新郎新婦とはまったく面識のない参加者の名前も書かれるなど、まさに市民参加型の結婚式。また、通りすがりの結婚式に参加するという驚きの体験を、SNSで発信するという参加者も多く見られた。

就職を機に、根津に移り住んできた上田さん。地域の行事や町内活動にも積極的に参加し、親睦を深めてきた。会場となった大通りでは、参加者が並んで迎えたが、そこには二人を地域に迎えるという意味合いも重ね合わせた。

さらに、多くの地域住民の協力によって成功した結婚式と言える。企画を推し進めた実行委員会のメンバーはもちろんのこと、公道を占有しての結婚式ということで、警察への道路使用

許可は町会を通じて。イベントを取り仕切った行政スタッフ、神社、周辺大学の学生スタッフの協力もあった。会場の設営、司会進行、装飾、演出なども地元の人達がサポート。バージンロードの布は、日暮里の繊維問屋が調達し、ステージは町内の酒屋のビールケースの上に、材木屋の合板を載せたもの。ケーキやブーケについても、地域の商店に依頼した。

コンテストでは、移り住んだ下町を新しい「ふるさと」とし、地域全体での取り組みが高い評価を受けた。東京でもできるふるさとウェディングの、新たな可能性を示唆している。



▲受賞者と表彰式の様子

その他の受賞者

【観光庁長官賞】
山形ウェディング協議会

【全日本ブライダル協会賞】
国際ホテル・ブライダル専門学校

【ブライダル産業新聞社賞】
アイ・ケイ・ケイ株式会社福井支店・齊藤彩香さん

総務大臣賞は東京下町根津の結婚式

藍染大通りウェディング実行委員会・上田一樹さん



▲まつりで賑わう神社境内



▲参加者を楽しませた演奏



▲全体の来場者は300名